

## 現職教員から今年も1回生が話を聴きました

7月17日に教育学部において、本学の卒業生である現職教員の方から、1回生が教職の話聴く機会が今年も設けられました。1回生の必修科目「キャリアデザイン論」の最終回を使って毎年行われている恒例の機会であり、祝日に授業があることを利用して、ここ4年間、行われているものです。

本年も、小学校、中学校、幼稚園から3～4年目の卒業生が来てくださり、学生時代に感じていたことや生きた経験、現在の一日のスケジュール、教師の仕事のたいへんな部分とやりがいなどを、それぞれ熱心に語りかけてくださいました。聴いていた1回生からの感想をみると、「教師が忙しいというのは予想していたが、大変ななかにもやりがいを感じられることがあると感じた」、「教師は子どもに知識を与える仕事だと思っていたが、子どもと共に学び、成長する仕事だという新しい見方が得られた」といった、新たな発見や確認ができた旨の記述が多く見られました。またスクールサポーターを自分も始めたい、人と多く関わって経験を豊かにしておきたいといった、課題意識も多く聞かれました。1回生が現場の先生、しかも年齢があまり違わない卒業生から話を聴かせていただくことには、やはり多くの収穫があるものだと感じました。

(文責・若松養亮)

